

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科： 国語 科目： 言語文化 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者： (A組：平井) (B組：平井) (C組：平井)

使用教科書： (『言語文化』大修館書店)

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたり必要な国語の知識や技能を身につける、
- 【思考力、判断力、表現力等】 考察力・共感力・想像力を伸ばし、自らの思いを他者に的確に発信する能力を育てる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 読書に親しみ自己を向上させ、自国文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたり必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対して興味関心を持ち、理解を深めることができるようにする。	古典作品、文学的作品において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しむ姿勢をもち、我が国の文化の担い手として、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	A★古文に親しむ ★用言・助動詞の習得 ○古典文学から現代文学へのつながりを知る。	『宇治拾遺物語』 『今昔物語』 『徒然草』 ○『羅生門』 便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。 ○他科目との合同授業	○	○	○	20
	B★漢文に親しむ ★漢語の基本構造を知る	『論語』 『孟子』 便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		2
2 学 期	A★平安文化に触れる ★助動詞・敬語の習得	『枕草子』 『伊勢物語』 『源氏物語への招待』 便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。 ○他科目との合同授業	○	○	○	24
	B★漢文に親しむ ★漢文の句形の習得 ○古典文学から現代文学へのつながりを知る	『蛇足』 『完璧』 『鶏鳴狗盗』 『臥薪嘗胆』 ○漢文と夏目漱石 便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。	○	○	○	22
	定期考査						○	○		2
3 学 期	A★和歌に触れ、心を感じる ★旅・紀行文から人生を見る ★敬語・助詞の習得 ○旅文学から人生を見る	『土佐日記』 『更級日記』 『万葉集・古今和歌集』 ・新古今和歌集』 ○『城の崎にて』 便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。 ○他科目との合同授業	○	○	○	14
	B★漢文から当時の社会を見る ★漢詩に触れ、心を感じる。 ★漢文の句形の習得	漢詩 『雑説』 『人面桃花』 便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
									合計	117

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 数学科 科目 数学 I

教科： 数学科 科目： 数学 I 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者： (A組：山崎・松田) (B組：山崎・松田・美濃部) (C組：山崎・松田・美濃部)

使用教科書： (数研出版 数学 I)

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数の考えについての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明確・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその性質を考察する力に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
複素数と方程式 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	複素数 (1.5) 2次方程式の解と判別式 (1.5) 解と係数の関係 (6) 剰余の定理と因数定理 (5) 高次方程式 (6)	【知識・技能】 ○複素数の表記を理解し、複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ○複素数の四則計算ができる。 ○負の数の平方根を理解し、それらを含む式の計算を、 i を用いて処理することができる。 ○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ○和と積を与えられた2数を、2次方程式を解くことにより求めることができる。 ○剰余の定理を利用することができる。 ○ $P(x)$ である k の値の求め方を理解し、高次式を因数分解できる。 ○因数分解や因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる。 ○高次方程式の既知の解から、方程式の係数を決定することができる。 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 【思考・判断・表現】 ○有理数から実数へ数の範囲を拡張する必要性を理解し、複素数を考察することができる。 ○複素数の範囲で、負の数の平方根を考察することができる。 ○2次方程式の解について、実際に解を求めずに、判別式で解の種類を判別することができることを理解している。 ○異なる2つの実数 α 、 β が正の数、負の数、異符号であることを、同値式で表現できる。 ○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して考察することができる。 ○多項式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。 ○高次方程式を、1次・2次方程式に帰着して考察することができる。 ○高次方程式が解 α をもつことを、式で表現することができる。 ○「方程式が虚数 α を解にもつば α^* も解である」ことの証明に、共役な複素数の性質がどのように使われるかを考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 ○2次方程式の解が虚数になる場合も示し、2次方程式の解を考察しようとする。 ○2次方程式の解に関する種々の問題を、解と係数の関係を利用して考察しようとする。 ○2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ○多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ○1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ○方程式が虚数 α を解にもつば α^* も解であることに興味・関心をもつ。 ○3次方程式の解と係数に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1
1 学期 図形と式 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	直線上の点 (1) 平面上の点 (2) 直線の方程式 (4) 2直線の関係 (6) 円の方程式 (3) 円と直線 (3) 2つの円 (1)	【知識・技能】 ○距離の公式を利用して、図形の性質を証明できる。 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ○2直線の平行・垂直条件を理解して、それを利用できる。 ○連立方程式の整数解の個数と、2直線の共有点の個数の関係を理解している。 ○ $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ○点と直線の距離の公式を理解して、それを利用できる。 ○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○ Ox 、 y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ○3点を通る円の方程式を求めることができる。 ○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ○円の接線の公式を理解して、それを利用できる。 ○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ○2つの円の位置関係を調べることができる。 ○ $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して、円の方程式を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○1点を通る直線の方程式から、異なる2点を通る直線の方程式に拡張して考察することができる。 ○連立方程式の状況や、2直線の位置関係から考察することができる。 ○2直線の交点を通る直線を、方程式を用いて考察することができる。 ○円の方程式が x 、 y の2次方程式で表されることを理解し、 x 、 y の2次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ○3点を通る円と、この3点を頂点とする三角形との関係を考察することができる。 ○円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ○直線が円によって切り取られてできる線分の長さを、円の中心と直線の距離を用いて考察することができる。 ○2つの円の位置関係を、2円の中心間の距離と半径の関係で考察することができる。 ○2つの円の交点の座標や、交点を通る円について、2つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。 ○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ○軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ○点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 ○変数 x 、 y についての不等式を満たす点 (x, y) 全体の集合がどのような図形であるかを考察することができる。 ○条件の真偽集合を考えることにより、命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ○線形計画法では、条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより、鮮やかに最大値・最小値を求めることができることに興味・関心をもつ。 ○不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ。 ○放物線を境界線とする領域に関心をもち、考察しようとする。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

数学科

科目 数学A

教科： 数学科

科目： 数学A

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者： 松田崇史

使用教科書： （ 数研出版 数学A ）

教科 数学科

の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学A

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	式と証明 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	恒等式 (4) 等式の証明 (4) 不等式の証明 (5)	【知識・技能】 ○恒等式の性質を理解し、恒等式となるように係数を決定することができる。 ○分数式の恒等式について、分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ○2つ以上の文字に関する恒等式の係数を決定することができる。 ○等式を証明することができる。 ○不等式を証明することができる。 【思考・判断・表現】 ○1文字の恒等式の知識をもとに、2つ以上の文字に関する恒等式について考察することができる。 ○与えられた条件式の利用方法を考察することができ、適した方法を用いることによって等式を証明することができる。 ○不等式 $A > B$ を証明するには $A - B > 0$ を示せばよいと考察することができ、そのことを用いて不等式を証明することができる。 ○不等式の証明で、等号が成り立つ場合について考察できる。 ○不等式の証明に実数の平方の性質を利用できるように、式変形を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。 ○等式、不等式の証明を通して、数学の論証に興味・関心をもつ。 ○相加平均・相乗平均の大小関係の有用性に、興味・関心をもつ。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	データの分析 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。		【知識・技能】 ○偏差、分散、標準偏差、相関係数の定義とその意味を理解しそれらを求めることができる。 ○相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。 ○分割表の意味を理解し、数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。 ○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。 【思考・判断・表現】 ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 ○散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 ○データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確に捉えて説明することができる。 ○複数のデータを、散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 ○不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。 ○相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。 ○問題の解決や改善を図るために、現状のデータの分布を望ましいと考える方向に変えるための条件や改善策を、コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして探ろうとする。 ○身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科： 理科 科目： 物理基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者： 荻原 清

使用教科書： （ 東京書籍 新改訂 物理基礎 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の目標：

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通じて、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1編 1章 運動の表し方 【知識及び技能】 ・運動の表し方についての観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・運動の表し方について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・運動の表し方に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・変位や速度・加速度などの基本的な物理量の測定と扱い方 ・合成速度、相対速度 ・等速直線運動 ・等加速度運動	【知識及び技能】 ・観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について理解している。また、観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題意識を持ち、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	2編 2章 さまざまな力とそのはたらき 【知識及び技能】 ・さまざまな力、力のつり合い、運動の法則、物体の落下運動について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・さまざまな力とそのはたらきについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・さまざまな力とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・さまざまな力 ・力のつり合い ・運動の法則 ・落下運動	【知識・技能】 ・観察、実験などを通して、さまざまな力、力のつり合い、運動の法則、物体の落下運動について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	
2 学 期	1編 3章 力学的エネルギー 【知識及び技能】 ・力学的エネルギーについての観察、実験などを通して、運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・力学的エネルギーについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・力学的エネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・仕事とエネルギー ・運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー	【知識及び技能】 ・観察、実験などを通して、運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・力学的エネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	2編 1章 熱 【知識及び技能】 ・熱についての観察、実験などを通して、熱と温度、熱の利用について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・熱について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・熱に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・熱と温度 ・熱膨張 ・熱平衡 ・物質の三態 ・熱の利用	【知識及び技能】 ・観察、実験などを通して、熱と温度、熱の利用について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。				15
定期考査			○	○		1	
3 学 期	2編 2章 波 【知識及び技能】 ・波についての観察、実験などを通して、波の性質、音と振動について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・波について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・波に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・波動現象 ・波をグラフで表す （横波、縦波、速さ、振動数、周期、波長、変位などの物理量の理解） ・波の重ね合わせ ・音波	【知識及び技能】 ・観察、実験などを通して、波の性質、音と振動について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。				17
	定期考査			○	○		1
	合計						

高等学校 令和5年度（1学年用）教科

理科

科目 生物基礎

教科：理科

科目：生物基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（A組：倉澤武義）（B組：中村博）（C組：中村博）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（生物基礎 東京書籍）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	5. 生物の多様性と生態系 【知識及び技能】 生物の多様性と生態系について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。また、生態系の保全の重要性について認識すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 話し合い、レポートの作成、発表を適宜行わせ、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。 1. 生物の多様性と共通性 2. 植生と遷移 3. 遷移とバイオーム	【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト 【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	1. 生物の特徴 【知識及び技能】 生物の特徴について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 話し合い、レポートの作成、発表を適宜行わせ、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。 1. 細胞の特徴 2. 生物とエネルギー代謝	【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト 【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
2 学期	2. 遺伝子とそのはたらき 【知識及び技能】 遺伝子とそのはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解すること。塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解すること。 【学びに向かう力、人間性等】 話し合い、レポートの作成、発表を適宜行わせ、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報とタンパク質	【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト 【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

2 学期	<p>4. ヒトの体の調節</p> <p>【知識及び技能】 ヒトの体の調節について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 話し合い、レポートの作成、発表を適宜行わせ、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	<p>以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。</p> <p>1. 体内環境と情報伝達 2. 免疫のはたらき</p>	<p>【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況</p>	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
3 学期	<p>5. 生物の多様性と生態系</p> <p>【知識及び技能】 生物の多様性と生態系について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。また、生態系の保全の重要性について認識すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 話し合い、レポートの作成、発表を適宜行わせ、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	<p>以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。</p> <p>1. 生態系と生物多様性 2. 生態系の保全</p>	<p>【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況</p>	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
							合計
							78

年間授業計画

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組～C組

教科担当者：（A組：吉田、佐川）（BC組：増野、吉田、佐川）

使用教科書：（701現代高等保健体育（大修館書店））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間との考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>体育理論</p> <p>【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ 	<p>【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んだ。</p>	○	○	○	2
	<p>体づくり運動</p> <p>【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし運動 ・実生活に生かす運動の計画 	<p>【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	○	○	○	3
	<p>武道</p> <p>【知識及び技能】 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防ができる。</p> <p>剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり抑えたりするなどの攻防ができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などにおける自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや健康・安全を確保することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道 ・歴史、礼儀作法、体づくり、受け身、投げ技、固め技、連続技を練習し、習った技を使って簡単な攻防を行う。 ・剣道 ・竹刀の持ち方、足さばき、簡単な打突、また基本技や簡単な打ち合いを中心に学習し、防具を付けている相手に打ち込みを行う。 	<p>【知識・技能】 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防ができた。</p> <p>剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり抑えたりするなどの攻防ができた。</p> <p>【思考・判断・表現】 攻防などにおける自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全を確保しながら、武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	○	○	○	15
	<p>ダンス</p> <p>【知識及び技能】 表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方などで変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動による創作ダンスを行う。 ・表現したい内容を動き、構成を工夫し小モチーフから大モチーフへと発展させる。 	<p>【知識・技能】 表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方などで変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	○	○	○	15
<p>水泳</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど自ら健康・安全を確保しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳の4種類の泳法を学習する。 ・入学年次にバタフライの泳法を完成させ、2.5mを泳ぎきる。 ・記録を向上させる。 	<p>【知識・技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど自ら健康・安全を確保しようとした。</p>	○	○	○	12	

年間授業計画

高等学校 令和5年度（1学年用）教科

保健体育 科目 保健

教科： 保健体育 科目： 保健

単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（ A組B組：吉見 ） （ C組：吉田 ）

使用教科書：（ 701現代高等保健体育（大修館書店） ）

教科 保健体育

の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	現代社会と健康 【知識】 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること。生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指そうとする。	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復	【知識】 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること。生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解できた。 【思考・判断・表現】 現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指そうとしている。	○	○	○	8
	安全な社会生活 【知識及び技能】 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減でき、応急手当には正しい手順や方法があること、また応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解できるようにする。 心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に活用することができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 応急手当について関心をもち、積極的に心肺蘇生法の習得に取り組もうとする。	・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	【知識・技能】 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減でき、応急手当には正しい手順や方法があること、また応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解できた。 心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができた。 【思考・判断・表現】 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に活用することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 応急手当について関心をもち、積極的に心肺蘇生法の習得に取り組もうとした。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和5年度（1学年用）教科

外国語

科目

英語コミュニケーションⅠ

教科： 外国語

科目： 英語コミュニケーションⅠ

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者： (A組：横田) (B組：横田) (C組：渡部)

使用教科書： (ELEMENT I English Communication I, Stock 4500, Reading Flash)

教科 外国語

の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的、社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅠ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションの行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数							
		聞	読	話 (や)	話 (発)	書												
1 学 期	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関し目標レベルに到達する。 【思考力、判断力、表現力等】 各レッスンのテーマにおいて外国語で自ら質問に答え内容を再現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度を身につける。	Lesson 1 Intercultural Relationships Lesson 2 Love beyond Species ・一人1台端末の活用										① 定期考査：中間 ② Stock 4500英単語テスト ③ Essay Writing ④ 提出物・発表等	○	○	○	17		
	定期考査		○	○										○	○	○	1	
	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関し目標レベルに到達する。 【思考力、判断力、表現力等】 各レッスンのテーマにおいて外国語で自ら質問に答え内容を再現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度を身につける。	Lesson 3 Contributing to Our Planet Lesson 4 Messages for World Peace ・一人1台端末の活用											① 定期考査：期末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Essay Writing ④ 提出物・発表等	○	○	○	23	
定期考査		○	○											○	○	○	1	
2 学 期	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関し目標レベルに到達する。 【思考力、判断力、表現力等】 各レッスンのテーマにおいて外国語で自ら質問に答え内容を再現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度を身につける。	Lesson 5 Respecting Each Other Lesson 6 Language and Culture ・一人1台端末の活用										① 定期考査：中間 ② Stock 4500英単語テスト ③ Essay Writing ④ 提出物・発表等	○	○	○	23		
	定期考査		○	○											○	○	○	1
	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関し目標レベルに到達する。 【思考力、判断力、表現力等】 各レッスンのテーマにおいて外国語で自ら質問に答え内容を再現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度を身につける。	Lesson 7 Technology and Discoveries Further Reading 1 Toward Sustainable Development Goals ・一人1台端末の活用											① 定期考査：期末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Essay Writing ④ 提出物・発表等	○	○	○	23	
定期考査		○	○											○	○	○	1	
3 学 期	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関し目標レベルに到達する。 【思考力、判断力、表現力等】 各レッスンのテーマにおいて外国語で自ら質問に答え内容を再現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度を身につける。	Lesson 8 Standing Up for Human Rights Further Reading 2 Pictures without Shadows ・一人1台端末の活用										① 定期考査：学年末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Essay Writing ④ 提出物・発表等	○	○	○	26		
	定期考査		○	○											○	○	○	1

合
計
117

高等学校 令和5年度（1学年用）教科 外国語 科目 論理・表現Ⅰ

教科： 外国語

科目： 論理・表現Ⅰ

単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（A組：佐藤・斉藤弘）

（B組：横田・斉藤弘）

（C組：横田・斉藤弘）

使用教科書：（EARTHRISEⅠ、ブレイクスルー英文法36章、Focus on Listening、リンケージ英語構文100）

教科 外国語

の目標：

【知識及び技能】

外国語の音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的、社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 論理・表現Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・外国語の音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションの行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ 一 や ）	話 （ 発 ）	書					
1 学 期	【知識及び技能】 文の種類、文型、時制を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文の種類、文型、時制を用いた英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。	文の種類・基本文型・疑問詞・時制 ・副教材『ブレイクスルー英文法36章』Lesson 1～Lesson 6 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間 ② 単元小テスト（ブレイクスルー英文法） ③ Essay Writing ④ Presentation ⑤ 提出物等	○	○	○	17
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1
	【知識及び技能】 完了形・助動詞・受動態を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 完了形・助動詞・受動態を用いた英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。	助動詞・受動態・不定詞 ・副教材『ブレイクスルー英文法36章』Lesson 7～Lesson 13 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：期末 ② 単元小テスト（ブレイクスルー英文法） ③ Essay Writing ④ Presentation ⑤ 提出物等	○	○	○	23
定期考査		○	○			○		○	○	○	1	
2 学 期	【知識及び技能】 不定詞・動名詞・分詞を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 不定詞・動名詞・分詞を用いた英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。	動名詞・分詞・関係詞 ・副教材『ブレイクスルー英文法36章』Lesson 14～Lesson 21 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間 ② 単元小テスト（ブレイクスルー英文法） ③ Essay Writing ④ Presentation ⑤ 提出物等	○	○	○	23
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1
	【知識及び技能】 関係詞・比較を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 関係詞・比較を用いた英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。	比較・仮定法・否定 ・副教材『ブレイクスルー英文法36章』Lesson 22～Lesson 29 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：期末 ② 単元小テスト（ブレイクスルー英文法） ③ Essay Writing ④ Presentation ⑤ 提出物等	○	○	○	23
定期考査		○	○			○		○	○	○	1	
3 学 期	【知識及び技能】 仮定法・否定・語法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 仮定法・否定・語法を用いた英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。	語法・その他の文法項目 ・副教材『ブレイクスルー英文法36章』Lesson 30～Lesson 36まで ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：学年末 ② 単元小テスト（ブレイクスルー英文法） ③ Essay Writing ④ Presentation ⑤ 提出物等	○	○	○	26
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1
											合 計	117

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 情報 科目 情報1

教科： 情報 科目： 情報I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1学年 A組～ C組

教科担当者： (A組：勝間田 (B組：勝間田 (C組：勝間田

使用教科書： (実教出版 情報I)

- 教科 情報 の目標：
- 【知識及び技能】 情報機器、技術を活用し、問題解決や情報社会で人との係りを深めることのできる能力を得る。
 - 【思考力、判断力、表現力等】 いろいろな事象において情報機器をつかい問題解決ができ、学習や生活に応用できる技能を習得する。
 - 【学びに向かう力、人間性等】 情報と情報技術を適切に活用でき、情報社会に主体的に参画できる態度を養う。

科目 情報1 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
情報社会で生活するための情報技術を身に付け、自己の問題解決に利用できる。情報化の社会に対応できる知識、技術習得し、人とのかかわりをよりスムーズに関係をもてる。	身に着けた情報技術や情報機器を活用でき自己の問題を解決に利用できる。さらに得た情報能力で適切な判断ができ積極的に情報社会に参画できる。	情報社会に関わり問題の発見、解決に向けて主体的に情報知識と情報機器を活用し、自ら改善しようと積極的に取り組む姿勢が見られる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A 単元 情報社会 【知識及び技能】 データ、情報、知識の関係を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 データ活用とその関わりを理解 【学びに向かう力、人間性等】 インターネット等で調査できる。	・指導事項 情報の特徴と情報モラル 知的財産権 個人情報の保護 ・教材 ブラウザ Webページ ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 情報社会の関係を理解できたか。 【思考・判断・表現】 データをどのように利用できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 インターネットなどでデータ集めを行ったか。	○	○	○	3
	B 単元 メディア関係 【知識及び技能】 各メディアの内容を知る 【思考力、判断力、表現力等】 各メディアの特徴とそのメディアを 使える 【学びに向かう力、人間性等】 ブラウザなどで積極的情報収集	・指導事項 情報メディアの特徴 インターネットの形態 Webでのコミュニケーション ・教材 ブラウザ、Webページ ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 メディアを使って情報発信ができるか。 【思考・判断・表現】 メディアの内容を理解できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報データなど収集を積極的に行ったか。	○	○	○	5
	定期考査						
	C 情報デザインとその実践 【知識及び技能】 文字、画像、音声の特徴を理解 【思考力、判断力、表現力等】 ワープロなどを使って各メディアを 表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 文章、プレゼン作品の作成	・指導事項 文字、図形、Webの特徴とそのデザイ ン 実習：ワープロでデザイン文章作 成、プレゼンテーション、HTMLでのWeb ページ作成 ・教材 ワープロ エディタ ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 メディアとそのデザインの特徴を理解できた か。 【思考・判断・表現】 実習でうまく作品がつくれたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 プレゼン、Webページの作品づくりを積極的 に行ったか。	○	○	○	12
	D 単元 システムとデジタル化 【知識及び技能】 コンピュータのしくみと各装置 【思考力、判断力、表現力等】 コンピュータの計算のしくみなど説 明できるか。 【学びに向かう力、人間性等】 ハードやソフトを理解する。	・指導事項 コンピュータのしくみ ソフトウェアハードウェア インターフェース デジタル化と2進数、演算 ・教材 コンピュータ内の部品 各種インターフェース	【知識・技能】 コンピュータの仕組みが理解している 【思考・判断・表現】 2進法や演算の仕組みを理解できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 コンピュータ部品、周辺機器の実物に興味もっ て積極的に理解しようとしたか。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
2 学期	A 単元 ネットワークとセキュリティ 【知識及び技能】 通信方法の種類やLANの構成 【思考力、判断力、表現力等】 LAN構成機器内容を考えられる 【学びに向かう力、人間性等】 LAN装置を自ら調べようとする	・指導事項 ネットワークの構成 プロトコルの内容 Webページとメールのしくみ 情報セキュリティの確保 ・教材 通信機器部品 Webページ ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 ネットワークの仕組みが理解している 【思考・判断・表現】 LANのしくみを理解できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 LANの構成を個人やグループ活動で興味もって積 極的に理解しようとしたか。	○	○	○	15
	A 単元 問題解決とその方法 【知識及び技能】 問題解決の現状把握とその手順 【思考力、判断力、表現力等】 問題解決に表計算ソフトを活用でき る 【学びに向かう力、人間性等】 解決にソフトを積極的に使う	・指導事項 問題解決とは データの活用 モデル化とシミュレーション 情報セキュリティの確保 ・教材 表計算ソフト ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 問題解決の方法を理解できたか 【思考・判断・表現】 データを収集選択できる能力があるか 【主体的に学習に取り組む態度】 表計算ソフトや各ソフトを積極的 に使って問題解決をしようとしたか。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
3 学期	A 単元 アルゴリズムとプログラミング 【知識及び技能】 基本制御構造の内容を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 フローチャート図を作成する 【学びに向かう力、人間性等】 プログラミング言語に興味を示す	・指導事項 プログラミング言語の種類 アルゴリズムとその表記 実習：プログラミングの方法 ・教材 表計算マクロ(VBA)やPython ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 アルゴリズムその使い方を理解できたか 【思考・判断・表現】 アルゴリズムの基本的制御構造やプログラミ ング言語の種類や特徴を理解できたか 【主体的に学習に取り組む態度】 アルゴリズム図を書いたりプログラミング言語 を使おうとしたか	○	○	○	6
	A 単元 プログラミングの実践と情報 のまとめ 【知識及び技能】 VBAによるプログラミング実習 【思考力、判断力、表現力等】 関数や構文を理解し使用する 【学びに向かう力、人間性等】 プログラミングを積極的に実施	・指導事項 変数、関数の使い方 関数、変数の使い簡単なプログラ ム作成 情報のまとめ ・教材 表計算マクロ(VBA) ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 表計算マクロを理解できたか 【思考・判断・表現】 関数、変数が理解できプログラムを 作動できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 プログラミングを積極的に開発し辛抱強くデ バッグもしたか	○	○	○	10
学年末考査			○	○		合計 78	